

SAP R/3 で動く人事・会計システムのTCO削減をめざしてサーバー移行 DB2 UDB & xSeries™ でコスト7割以上減、レスポンス最大20倍を実現

日産ディーゼル工業株式会社
http://www.nissandiesel.co.jp/

“お客様に喜ばれ、地球環境にやさしい商品・サービスの提供を通じて、世界の物流革新に貢献し続ける”という企業理念を掲げ、商用トラックの生産・販売で、日本の産業界に寄与する日産ディーゼル工業株式会社。同社は2003年5月、SAP R/3の人事・会計パッケージのサーバー環境を他社製UNIX®機からIBM® @server xSeriesに、そしてデータベースをADABAS (SAPDB)からDB2 UDBに移行しました。その結果、システムコストが7割減、レスポンスが7~20倍改善(*)という驚異的な導入成果が得られ、命題だった“無駄のないシステム運用”を実現することができました。

* 数値は社内調べであり、また個々のシステム環境その他の要因により大きく異なります。

インダストリー

◇製造

ソフトウェア

◇DB2 Universal Database™ Enterprise Edition V7.2 for Windows®

◇SAP R/3

ハードウェア

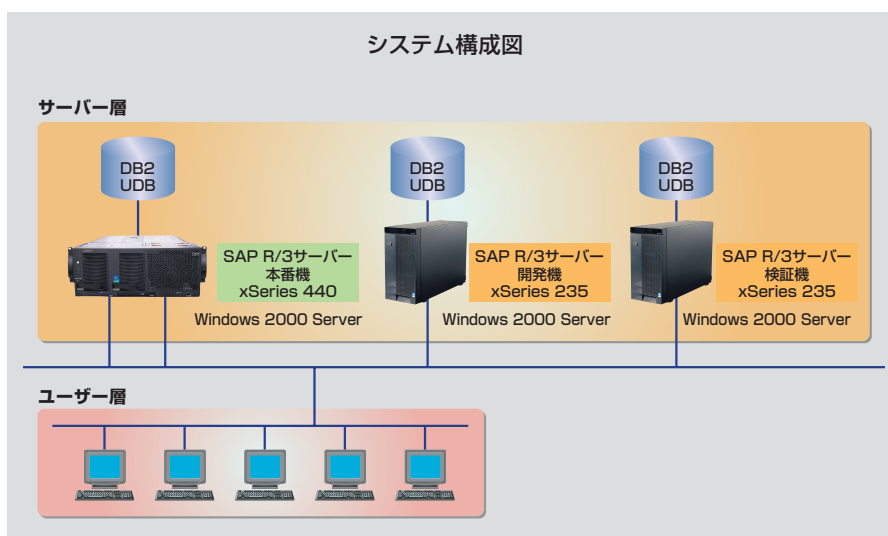
◇IBM® @server xSeries™ 440

◇IBM® @server xSeries™ 235

ソリューション

◇SAP R/3による人事・会計システム

システム構成図



環境にやさしい商品で、物流革新に貢献

日本の物流の根幹を支えているのは、商用トラックによる陸上輸送です。この商用トラックの生産にフォーカスを絞り、刻々と変化する産業界の需要に大きく寄与しているのが日産ディーゼル工業株式会社です。同社の企業理念は、“お客様に喜ばれ、地球環境にやさしい商品・サービスの提供を通じ、世界の物流革新に貢献し続ける”ことです。

たとえば「キャパシターハイブリッド中型トラック」は、ディーゼル・エンジンとモーター、そしてブレーキの力を利用する蓄電装置「スーパーパワーキャパシター」を組み合わせるハイブリッド化した中型トラックです。従来のディーゼル車に比べ大幅な低燃費化と低公害化を



キャパシターハイブリッド中型トラック「コンドル」

現したこのモデルは、財団法人省エネルギーセンターが主催する平成14年度省エネ大賞において、最高賞である経済産業大臣賞を受賞しました。

また近年は、シャシー&架装ボディーを一体で提供する完成車ビジネスをはじめ、部品や整備、中古車などを含めたバリューチェーン全般での価値の提供に注力。顧客満足度の向上に重きを置いた企業活動を展開しています。

“人事・会計システムのTCOを削減したい”

1997年、同社はグループ会社の日産ディーゼル販売株式会社(当時。現在は日産ディーゼル工業と合併)とともに、ERPアプリケーションSAP R/3の人事・会計パッケージを導入しました。これは、国際会計基準に対応した迅速な決算処理や2000年問題対応を目的としたものでした。アプリケーションのプラットフォームには他社製UNIXサーバーを選択、リレーショナルデータベースには、SAP R/3の標準データベースであり管理が容易とされていたADABAS (SAPDB)を搭載しました。

その後5年間、システムは順調に稼働しました

が、歳月の経過とともにいくつか新たな課題が浮上し始めました。日産ディーゼル工業の情報システム開発・保守を担当する株式会社システムブレイン SI事業部部長の今泉正明氏は、次のように語ります。

「第一は、ADABAS (SAPDB) の保守管理の問題です。日本ではこのデータベースを採用した企業が少なく、そのためベンダーによるサポートがどうしても手薄になりがちでした。将来に安心して使い続けられるという保証もありません。いずれデータベースを変えたいと考えていました。そして第二は、システム全体のTCO削減ニーズへの対応です」

当時、日産ディーゼル工業ではTCO削減のために、CADなど他のシステム分野においては、すでにUNIX機をWindows機に変更するなどの取り組みを始めていました。同社情報システム企画部次長の佐々木隆氏は、こう補足します。

「ダウンサイジングすれば、ハードウェアの価格、その保守料金、ソフトウェアのライセンス価格、その保守料金と4つのコストが劇的に下がります。無駄のないシステム運用を考える上で見逃すことができない利点です。特にSAP R/3の場合は、本番機、開発機、検証機の3台構成ですから大きな効果が見込めます」

サーバーをUNIX機からWindows機に変更し、データベースもADABAS (SAPDB) からサードパーティー製のデータベースにすること。それが佐々木氏と今泉氏が考えた新システムの構成でした。この構想をSAPジャパンに相談したところ、その時点では、“リスクの大きさ”から肯定的な意見をもらえなかったといいます。

比類ないトータルサポート力でIBMを選択

ちょうどそんな折、日本アイ・ビー・エムがSAP R/3のマイグレーション・サービスの発表をいたしました。これは日本IBMがSAP R/3稼働プラットフォーム移行をIBM製品でサポートしようというものです。日産ディーゼル工業の場合であれば、他社製UNIXサーバーはIAサーバーのIBM *e*server xSeries (以下、xSeries) に、データベースはADABAS (SAPDB) からDB2 UDBに、という組み合わせが該当します。このプロジェクトは、日本IBMとSAPジャパンが

共同でセールスやマーケティングを行う協業体制から実現されたものでした。両社共同の支援センター SAC (Strategic Alliance Center) のパートナーグループ「SACパートナー会」でこの発表を聞いた今泉氏は、「求めていたソリューションはこれだ!」と直感しました。

「SAPジャパンが難しいという移行を、IBMが製品も出し、サポートもするとってくれるのですから、こんないい話はありません。選択の決め手は、必要なときに必要なサービスを提供してくれたIBMのトータルサポート力でした」佐々木氏も次のように補足します。

「このマイグレーション・サービスは他のベンダーでは提供できないでしょう。幅広いプラットフォームにハードウェア、ソフトウェア、データベース(DB2 UDB)を持ち、しかもシステム・インテグレーションの力を持つIBMだから可能だったのだらうと思います」

コストは7割減、レスポンスは7~20倍

マイグレーション作業は、システムブレインとNTTコムウェア株式会社によって行われました。NTTコムウェアが提供しているマイグレーション用サービスパッケージを利用し、2002年11月に作業を開始。実務にはほとんど支障をきたすことなく、約6カ月後の2003年5月に予定どおりサービスインすることができました。そこに待っていたのは、予想もなかった輝かしい成果でした。

サーバー環境をxSeriesとDB2 UDBに移行したことによって、システムコストのなんと7割以上が削減されました。それだけではありません。レスポンスが7~20倍に向上したので。たとえば給与計算では、従来7.8時間かか

っていた処理が約50分に短縮。以前は、夜に処理を始めて結果を見ることができるのが翌朝だったのが、今では当日の朝の処理で十分間に合うようになったといいます。全従業員が就労情報を集約し、日別テーブルに書き出す就労実績ファイルの作成も、処理時間が2.6時間から6分に短縮。TCO削減が最大の目標だった日産ディーゼル工業にとって、これは思わぬ副産物でした。同社の人事・会計部門からは、「これまでは、たばこ3本分の時間がかかっていた処理が、一瞬で終わってしまう」という声も聞かれました。それほど、人事業務、会計業務の作業負荷が大幅に軽減されたのです。また、これまで本番用、開発用、検証用とそれぞれにサーバースペースが必要だったのですが、xSeriesは筐体がコンパクトなため、それぞれ3台が1つのラックに収まります。設置スペースが3分の1になりオフィス空間が有効に活用できるようになったのも、今回のマイグレーションによるメリットのひとつです。

SAP R/3のサーバー環境移行によって、命題であったコスト削減に加え、大幅なレスポンス向上という成果も得ることができた日産ディーゼル工業。それを実現したのが、DB2 UDB & xSeriesでした。

お客様プロフィール

日産ディーゼル工業株式会社
<http://www.nissandiesel.co.jp/>

所在地

埼玉県上尾市大字壺丁目1番地

代表取締役社長

仲村 巖

事業内容

大型~小型トラックおよびバス、ディーゼル・エンジン、自動車用部品の製造販売

関連URL

・株式会社システムブレイン
<http://www.systembrain.com>
・IBM/SAP アライアンス
<http://www.ibm.com/jp/erp/sap/>



日産ディーゼル工業(株) 情報システム企画部 次長 佐々木 隆氏



(株)システムブレイン SI事業部 部長 今泉 正明氏

IBM製品・サービスの詳細情報・価格情報等については、
IBMデータベース関連ホームページ <http://www.ibm.com/jp/software/data/>
IBM Faxサービス (044-200-8600) をご利用ください。

お問い合わせは、IBMビジネス・パートナー、製品販売店、弊社営業担当員

または、ダイヤルIBM (☎ 0120-04-1992) へ。

受付時間: 月~金 9:00~18:00 (祝日、12/30~1/3を除く)

携帯電話等でおかけのお客様は下記の電話番号をご利用ください。

ダイヤルIBM 044-221-1522 (この場合、通話料金はお客様のご負担となります。)

IBM, e-businessロゴ, e (logo) business Software, e (logo) server, DB2, DB2 Universal Database, xSeriesは、IBM Corporationの商標。
UNIXは、The Open Groupがライセンスしている米国およびその他の国における登録商標。
Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標。
他の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12
09-03 Printed in Japan

●仕様は事前の予告なしに変更する場合があります。●このカタログの情報は2003年9月現在のものです。
●製品、サービス等詳細については、弊社もしくはIBMビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。